NAKANOSHIMA
MUSEUM OF ART, OSAKA

報道関係者各位 ｜ 2026. 11. 6

「生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン」開催決定のお知らせ

会期 ｜ 2027年7月15日（木）– 9月26日（日）

大阪中之島美術館（所在地：大阪市北区）は、「生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン」を2027年7月15日（木）– 9月26日（日）の会期にて、開催いたします。

開催趣旨

大正から昭和にかけて活躍し、日本グラフィックデザイン界の発展期を支えたデザイナー・山名文夫（やまな・あやお、1897 – 1980）。山名が手掛けた仕事のうち最も広く知られているのは、細く優美な線を活かした女性像や、「ドルックス化粧品」シリーズの唐草文様といった資生堂在籍時代のデザインです。資生堂の従来のデザインを引き継ぎながら、新しいスタイルを確立させました。しかしながらデザイナーとしての山名の仕事はさらに多彩なもので、スーパーマーケット・紀ノ国屋のシンボルマークやロゴタイプなどは、現在まで長く愛され続けています。

本展覧会は、資生堂在籍時代はもちろんのこと、多岐にわたった山名の創作活動を新たな視点からとらえます。また、同時代に活躍したデザイナーとの交流や、彼らによるグラフィックデザインにも触れることで、当時の日本グラフィックデザイン界の様相を明らかにするとともに、山名の仕事を俯瞰的に紹介します。

生誕130年を迎える今、山名文夫を、企業のデザイナーという枠にとどまらない一人のデザイナーとして位置づけ、その幅広い創作活動の全貌に迫ります。



山名文夫（やまな・あやお、1897 – 1980）



山名文夫（成城アトリエにて）
1950年　画像提供：資生堂企業資料館

1897（明治30）年広島生まれ。幼少期を和歌山で過ごし、1923（大正12）年、大阪の出版社・プラトン社に入社。雑誌『女性』や『苦楽』の挿絵やカットで注目を集める。1929（昭和4）年、資生堂に入社し、新聞広告やパッケージデザインなどを手掛けた。以降、戦後にかけて２度の退社・入社を重ねつつも、資生堂スタイルの確立に貢献した。1934年には日本工房に参加し対外宣伝グラフ誌『NIPPON』の編集に、1940年には報道技術研究会に関わる。

戦後は、1951年に日本宣伝美術会（日宣美）、1952年に東京アド・アートディレクターズクラブ（現・東京アートディレクターズクラブ）の創設にも参加。1966年に資生堂宣伝部の初代制作室長に就任、1969年には資生堂顧問となる。多摩美術大学では1947年から定年を迎えるまで教鞭をとり、1965年には日本デザイナー学院の初代学院長を務めるなど、後進の育成にも尽力した。1980年に逝去、享年82。主な受賞歴に、第1回毎日産業デザイン賞功労賞（1955年）、第9回広告電通賞（1956年）、日本宣伝クラブ第1回吉田賞（1961年）、勲四等瑞宝賞（1967年）。

みどころ

1　デザイナー・山名文夫の全貌に迫る、関西初の大回顧展！
2　今も身近なところに！色あせないデザインの数々
3　多彩な創作活動を、新たな視点でとらえる

1　デザイナー・山名文夫の全貌に迫る、関西初の大回顧展！

大正から昭和を生きたデザイナー・山名文夫。人生のおよそ半分の時間を資生堂で過ごしました。細く優美な線を活かした女性像や「ドルックス化粧品」シリーズの唐草文様に代表されるデザインで一時代を創り上げ、日本グラフィックデザイン界の発展期に大きな足跡を残したといえます。本展覧会では、山名の代表作を余すところなく紹介します。デザイナー・山名文夫の全貌に迫る、関西では初めての大規模な回顧展です。









左上：山名文夫
《資生堂化粧品　ポスター》
1955年 サントリーポスターコレクション
（大阪中之島美術館寄託）

右上：山名文夫
《資生堂創業100年記念
新聞広告イラストレーション　原画》
1972年 資生堂企業資料館

左下：《資生堂中煉歯磨》
（デザイン：山名文夫）
1940年 資生堂企業資料館

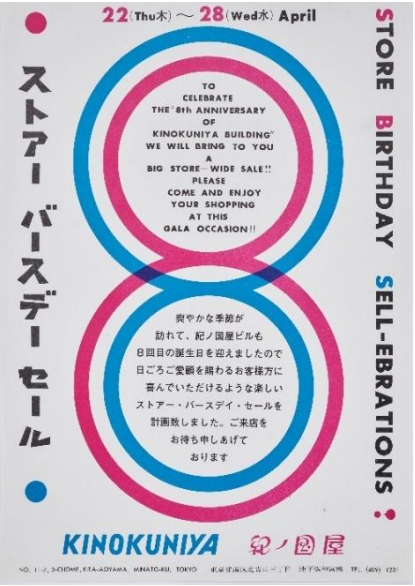
右下：《資生堂ドルックスコールドクリーム》
（デザイン：山名文夫）
1951年 資生堂企業資料館

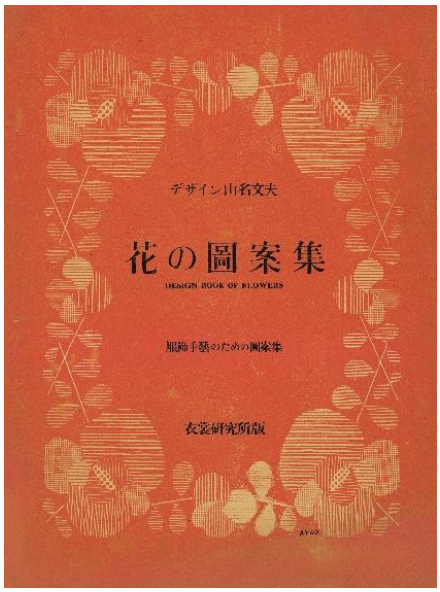
2　今も身近なところに！色あせないデザインの数々

スーパーマーケット・紀ノ国屋のシンボルマークやロゴタイプ、新潮文庫の葡萄のマーク。これらのデザインを山名が手掛けたことはご存知ですか？現在もなお人々に愛され、親しまれている山名のデザイン。最新の調査で明らかとなった初公開作品を含む、充実した作品の数々をご覧いただきます。









左上：山名文夫
《新潮文庫　シンボルマーク　原画》
1950年 資生堂企業資料館

右上：山名文夫
《紀ノ国屋　ショッピングバッグ》
デザイン原案：1974年
株式会社紀ノ國屋

左下：山名文夫
《紀ノ国屋　ストアー・バースデー・セール　フライヤー》
1971年 株式会社紀ノ國屋

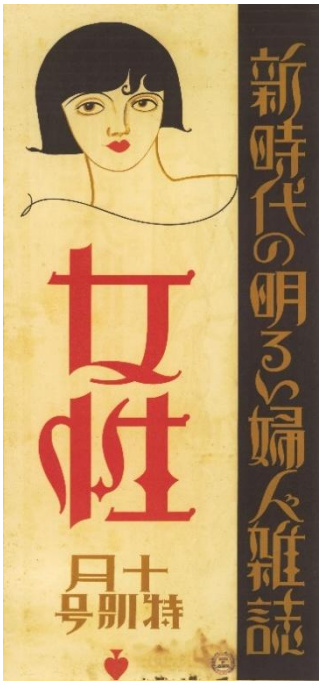
右下：『花の図案集』表紙
（デザイン：山名文夫／発行：衣裳研究所）
1948年 株式会社暮らしの手帖社

3　多彩な創作活動を、新たな視点でとらえる

竹久夢二（1884 – 1934）やイギリス出身の画家、オーブリー・ビアズリー（1872 – 1898）に大きな影響を受けた山名。本格的な仕事は、大阪の出版社・プラトン社で手掛けた雑誌『女性』や『苦楽』の挿絵やカットではじまりました。山名の創作の原点は大阪にあるといえます。

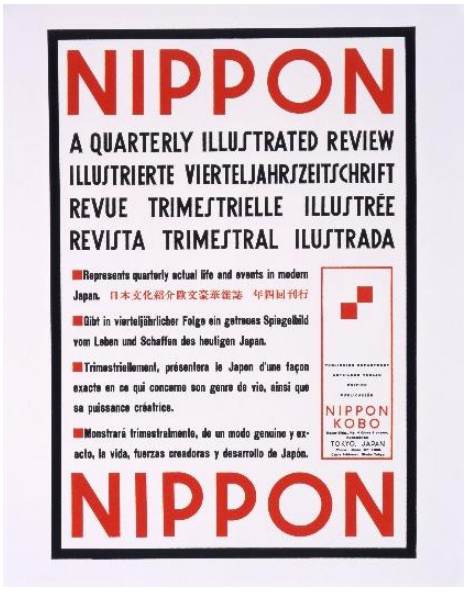
また、プラトン社や資生堂といった企業での仕事だけではなく、写真家・名取洋之助が主宰した「日本工房」、デザイナー職能団体「日本宣伝美術会」にも参画し、多摩美術大学や日本デザイナー学院では後進の育成にも尽力しました。

本展覧会では山名の生涯にわたる創作活動を網羅し、これまであまり注目されてこなかったこれらの面にも焦点を当てます。









左上：山名文夫
《『女性』十月特別号　ポスター》
1925年頃
京都工芸繊維大学美術工芸資料館

右上：『苦楽』第5巻第6号
（表紙：山名文夫／発行：プラトン社）
1926年 大阪中之島美術館

左下：山名文夫
《『苦楽』第7巻第1号　扉絵　原画》
1928年 資生堂企業資料館

右下：《『NIPPON』　ポスター》
（構成：山名文夫）
1934年 資生堂企業資料館

「つかまえてはなさないデザイン」とは？

「目をひくこと、目をつかまえること、つかまえてはなさぬこと、引っぱること、ガイドすること、むすびつけること」

山名は、1962年に自著『広告のレイアウト』（ダヴィッド社）を発表しました。新聞広告を中心にレイアウトの考察をまとめた一冊で、冒頭にこのような言葉が残されています。本展覧会のサブタイトル「つかまえてはなさないデザイン」は、山名が残したこの言葉の一部から着想を得ています。山名は著書のみならず、広告研究誌『プレスアルト』や『広告界』での寄稿や批評などを通じても、日本グラフィックデザイン界に大きな影響を与えました。本展覧会では、山名の理論家としての一面にも着目します。

開催概要

展覧会名　生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン
会期　2027年7月15日（木）- 2027年9月26日（日）
休館日　月曜日、7月20日（火）
＊7月19日（月・祝）、8月16日（月）、9月20日（月・祝）は開館
開場時間　10:00 –17:00（入場は16:30まで）
＊9月18日（土）– 9月26日（日）は10:00 – 20:00（最終入場19:30）
会場　大阪中之島美術館　4階展示室
主催　大阪中之島美術館、毎日新聞社
協賛　関電不動産開発株式会社
美術館公式サイト　https://nakka-art.jp/

報道関係者
お問い合わせ先

「生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン」広報事務局（株式会社TMオフィス内）
担当：馬場、永井、西坂　TEL：090-6065-0063（馬場）　090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032　E-MAIL：yamana@tm-office.co.jp

［広報用画像一覧］　生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。下記申し込みフォームよりお申し込みください。

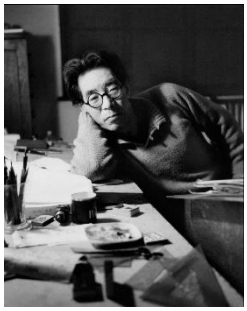
［広報用画像申込フォーム］

https://business.form-mailer.jp/fms/35084f5f374503

＊難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■ 広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に関しての注意」を必ずご確認ください。

(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



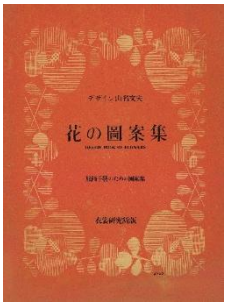
(7)



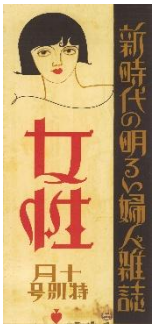
(8)



(9)



(10)



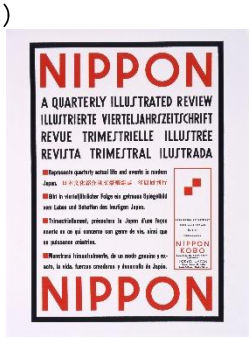
(11)



(12)



(13)



［広報用画像クレジット一覧］ 生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン

No.	クレジット（作者名・作品名・制作年、発行元・所蔵者）
1	山名文夫（成城アトリエにて） 1950年 画像提供：資生堂企業資料館
2	山名文夫 《資生堂化粧品　ポスター》 1955年 サントリーポスターコレクション（大阪中之島美術館寄託）
3	山名文夫 《資生堂創業100年記念　新聞広告イラストレーション　原画》 1972年　資生堂企業資料館
4	《資生堂中煉歯磨》 （デザイン：山名文夫） 1940年 資生堂企業資料館
5	《資生堂ドルックスコールドクリーム》 （デザイン：山名文夫） 1951年 資生堂企業資料館
6	山名文夫 《新潮文庫　シンボルマーク　原画》 1950年 資生堂企業資料館
7	山名文夫 《紀ノ国屋　ショッピングバッグ》 デザイン原案：1974年 株式会社紀ノ國屋
8	山名文夫 《紀ノ国屋　ストアー・バースデー・セール　フライヤー》 1971年 株式会社紀ノ國屋
9	『花の図案集』表紙 （デザイン：山名文夫／発行：衣裳研究所） 1948年 株式会社暮しの手帖社
10	山名文夫 《『女性』十月特別号　ポスター》 1925年頃 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
11	『苦楽』第5巻第6号 （表紙：山名文夫／発行：プラトン社） 1926年 大阪中之島美術館
12	山名文夫 《『苦楽』第7巻第1号　扉絵　原画》 1928年 資生堂企業資料館
13	《『NIPPON』　ポスター》 （構成：山名文夫） 1934年 資生堂企業資料館

［広報用画像申込書］　生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン

［画像使用全般に関しての注意］

・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせて頂きます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、文字や他のイメージを重ねることはできません。
・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は広報事務局にご連絡ください。
・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正を本展広報事務局にお送りくださるようお願いいたします。
・インターネットでご紹介いただく場合はコピーガードをかけてご使用のうえ掲載URLをお知らせください。
・掲載誌・紙（ご紹介号）、同録DVDほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

［広報用画像申込フォーム］

https://business.form-mailer.jp/fms/35084f5f374503

＊難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

ご希望の広報画像／1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13
貴社名／
お名前／
部署／　　ご所属／
貴媒体名／　　媒体種／
サイトURL／
掲載号・露出予定日／　　月号（　　月　　日号）／　　月　　日発売予定　□WEBへの転載あり
TEL／　　FAX／
E-MAIL／
□チケットプレゼントを希望する（最大2組4名様） ＊招待券のご提供は、広報用画像1点以上を掲載の上、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
送付先／ 〒　　－
備考／

報道関係者
お問い合わせ先

「生誕130年　山名文夫　つかまえてはなさないデザイン」広報事務局（株式会社TMオフィス内）
担当：馬場、永井、西坂　TEL：090-6065-0063（馬場）　090-5667-3041（永井）
テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032　E-MAIL：yamana@tm-office.co.jp